

李氏書
十八

7815
574
7815



茶道
開書

元禄二己巳九月

見玉玄瑞書

茶道開書





煖前勝年之圖并鎊付兩端之圖

牙一音徐圖別有

一右八九字等、あるハ八九字、右四等、中鎊
書院之古是之相、北勝年ハ右勝年之古、勝
年之古也

一勝年炭ノ時、筆右、上、世ノ左、上、良、炭、版
ハ、交、右、二、道、二

是圖有 一

一是ハ、古、勝年、九、中、等、代、五、ノ、法、一、あり

此茶茶葉入のありべ根をちるまふ

水指 茶葉

あるいそ茶くま

茶入

あいまちりさるどー

燗

二座の三層箱なる物あらはむろのめどを
目あてあててある物袋へ目あて朱
ちもつて圓小をらしお付をくむ
茶碗七その目あて小なちをて
茶入の袋ハ茶のくく茶入のまふてめか

きなる一是ハ大目ふても日多石積子

左積子と燗の時積るるり

一柄枚蓋重丸を二ツハ右積子左積子小

居るれゆの燗るるへもあるり

一柄枚湯をくみ下ゆ返小切くる時ハ柄

枚茶をよりたへり

是こ圖有こ二

一此左勝子ハ右積子枚左子とるる
るれは惣の時差あててえあ

あるおそれいかにして圓板を切るに
右猪子と猪子たるは——

一右ハ丸を四角に猪子左猪子之趣で
四角を大目と小左猪子多し——右猪子
ハ葉あたりに——右猪子ハ葉あたりに小
く——風掃いた猪子多てなくし
右猪子ハ多てて——

一柄杓の形様大目の左猪子の口を之を
てあるに代りさか多し柄杓なり也

一初る——葉を切るに左をくす
小葉あり

一おし外お母の猪子と丸く作し
うするは——しる後左へおとし
多る分あり仍て丸く作し——別
圖をとりさし中あり

是は圖有 三

一六目録の圖之是左猪子あり
一六目録ハ丸を金の輪録の足多る

とせ登るゝ事此處りきいどりるの
目十一目あるいハ十三目水指の大小ニ
きりてな我々を登り
一茶入茶見のめさう付ハ水指の腹を柄
抄の柄をうたかた小指にて茶
入板三分一うけて一分ハ七き二分ハ五
や扱きて分れハ茶見のめさう
扱き合れり
炭此付茶釜ハ反ハ上ニあり

炭取ハ左ハ右あり

是ニ圖有 四

一石ハ大目此きりきりあり茶釜
ハ左扱きぬり
一肩ありハい多りの柄を分れ
の角扱きす心茶釜のりてなるし
めあやのと扱き小重あり
一茶入ハ四さう付の座をおさす中り
引て有付重あり茶釜

斗方新くしふい矢合のあやまり
あさるし我まぬくれそはきめ
いまれさるるし一箇て揚せはれん

風爐鏡并之前之圖

是之圖有り

一風爐も右猪子左猪子座多の猪子
とるるし有り然も右猪子我本一

風爐のまへに横はさきい風爐は左の座は
きいより小板の厚四寸有り左は座は
きいより左板はるそはたう目少板十三
目毎多川有し一葉をるんさきこのあ
げやうも左板少板は厚寸とらたては川
わうよきこえあしして左奥の張さ目
長寸より流し種目有り左奥のとら板
わら多る共定はよりしとら奥の
大小板鏡もとら多るいてわらわら

此の如くしてさしやうふんは、
多と少とのあはれやうに、
片のくくし片のくくし、
芝、とせまをまくと、
り片くくろきてよし

又、
ハ多きれ中と、
のわ、
ひやく、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

巻：圖あり二

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

茶入袋ニはしるりの二葉片をこ
まあり

一茶入の圓のこりく火口の右の口を
まふかけてあてをす

一茶入の茶入のちふあへて袋ぬ
くすへし又いまく、袋をてぬ
くまらもくるくあふす

一水筒のふたに水差ふまて
かけてあへし風が吹き

トを炸七日あへし蒸こりて
葉は下り多てあもてあへし

以傳

是圖有あり三

一是は紙の左端に水差くまし
之初はあへり年別のさあし
ちやく、客器に茶入りの茶をこ
とあへるに可なり

水筒 茶入

あつて風経に四月朔と九月あつ
まづのおつて祭ハ十月朔ニハ三月あつ
まづのそのまゝだししとれは祭は四
月の中のみまて古名残をわしとれ
祭ハ九月廿九日十日後に比出と
りてまゝなる

一恵一々風経の茶湯ニハ別一々
あつてあつて度々の用意の家
路のちいじし料理くまを茶湯

己下一芝草なりたつてあつ
ははしをわくわたり切えを
ふでわくわくわく
一風経一決ニて通つてあるしし一原
むつたししとあつてあつてあつ
あつてあつてあつ
一風経ニ四々の柄移あり一風柄移
柄移切ありとわくわく一川是あり
今このまゝにまゝ柄移ありとわくわく

桐抄ふとよめの家こまきりて答
あるる一ありさるぬは風抄ハ
桐抄ちる一其おぬし一仍口
滑多

一お風抄ハ一本の香合りゆみ
お月抄ハ一本の香合りゆみ
たよおぬしあるる一ゆきま
りあるる一ありさるしあうら
つひあるる一ゆきま

ぢあぬし一本の子あしゆきま
合あぬしちとふりておぬし
しあぬしし夏ハあぬしあぬし
さたまきり又さあぬしあぬし
ありそれていさやうお目さあぬし
一風抄の嵐ハ明きく四寸五分ナリ
九本の切岸杖一ツツニツとしてあ
めく抄ハ多行なり一室をよし
るに室をよしあくてもくるしあ

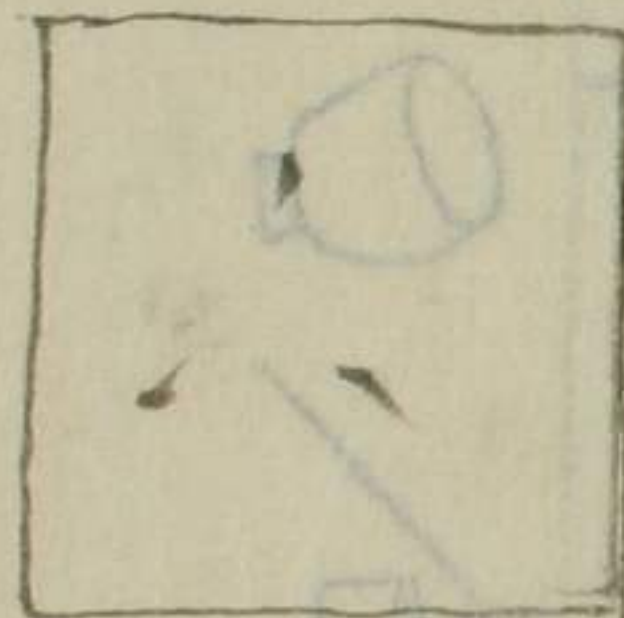
野中ていかりそめこ七たてこ
るしあしとて凡野のまきこ
炭ホーダい受るかところあり
一凡野の露路入十炭をさるし
ま合湯我言ゆきささせり
ま膳新あけく菓子めくろホ炭
まるがよきあり
一凡野中て立炭まるし
右一巻者野中凡野前る様也

左様也之録年取前一の通
及る我みれいおまをれて
まいがまきこる有あ師院のたむ
まきこて量法はけ程我をそく
信のめんくの多あこりのうああり
是よりし百一ふもあるんす
親ま細なる子ハ口借しと
あるす

元禄二己巳九月廿五日

圖之前手炉

茶壺



甲

此銘金錫銘ト云
 九寸銘是之水指一尺
 二寸之好始ちとりの
 水差の石の
 たり

延享四年二月

侯字 見玉之玉陽之

時六十一

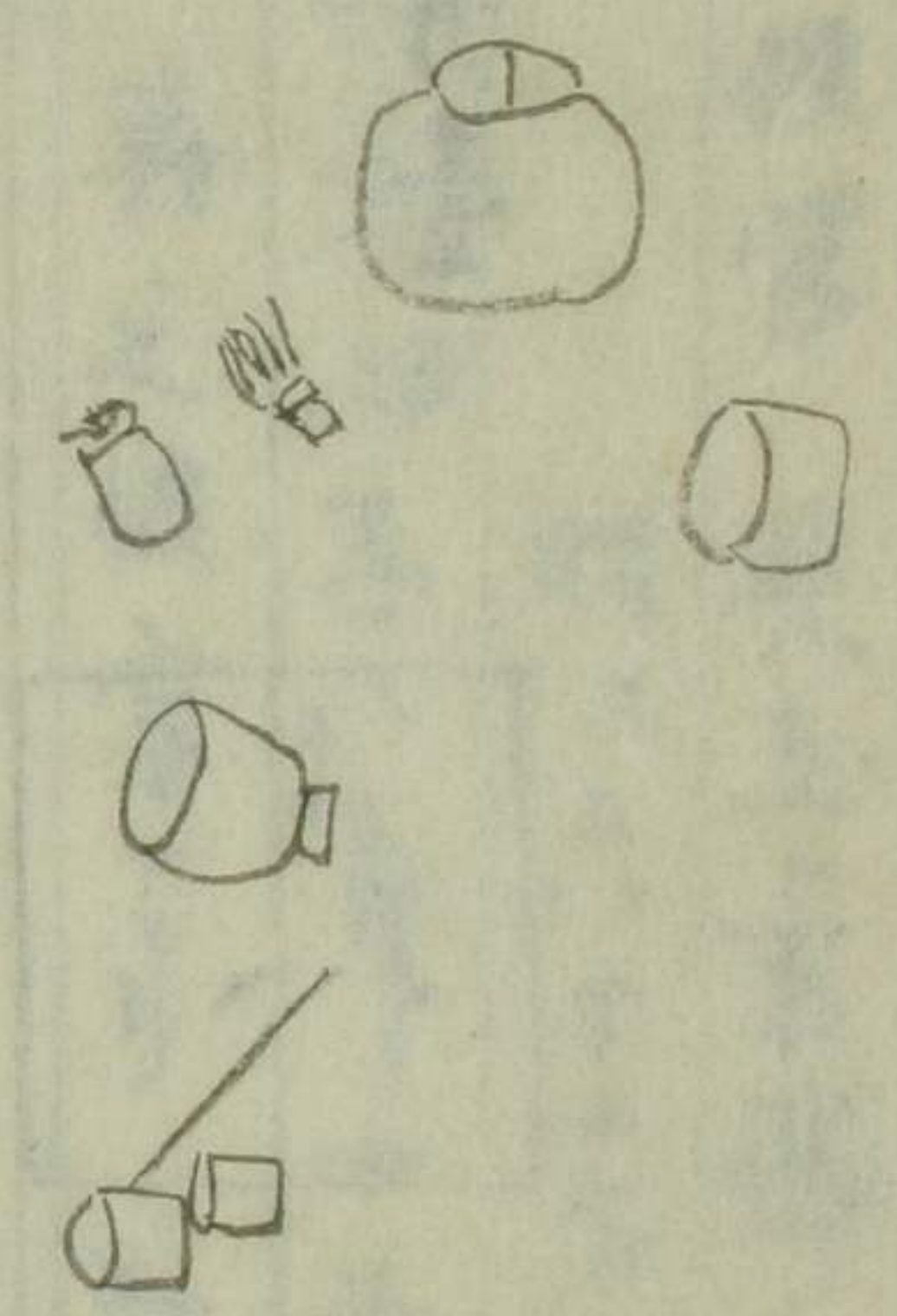
文代元 甲子八月十五

再之侯字丁リ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '延享四年二月' and '侯字']

秋手書

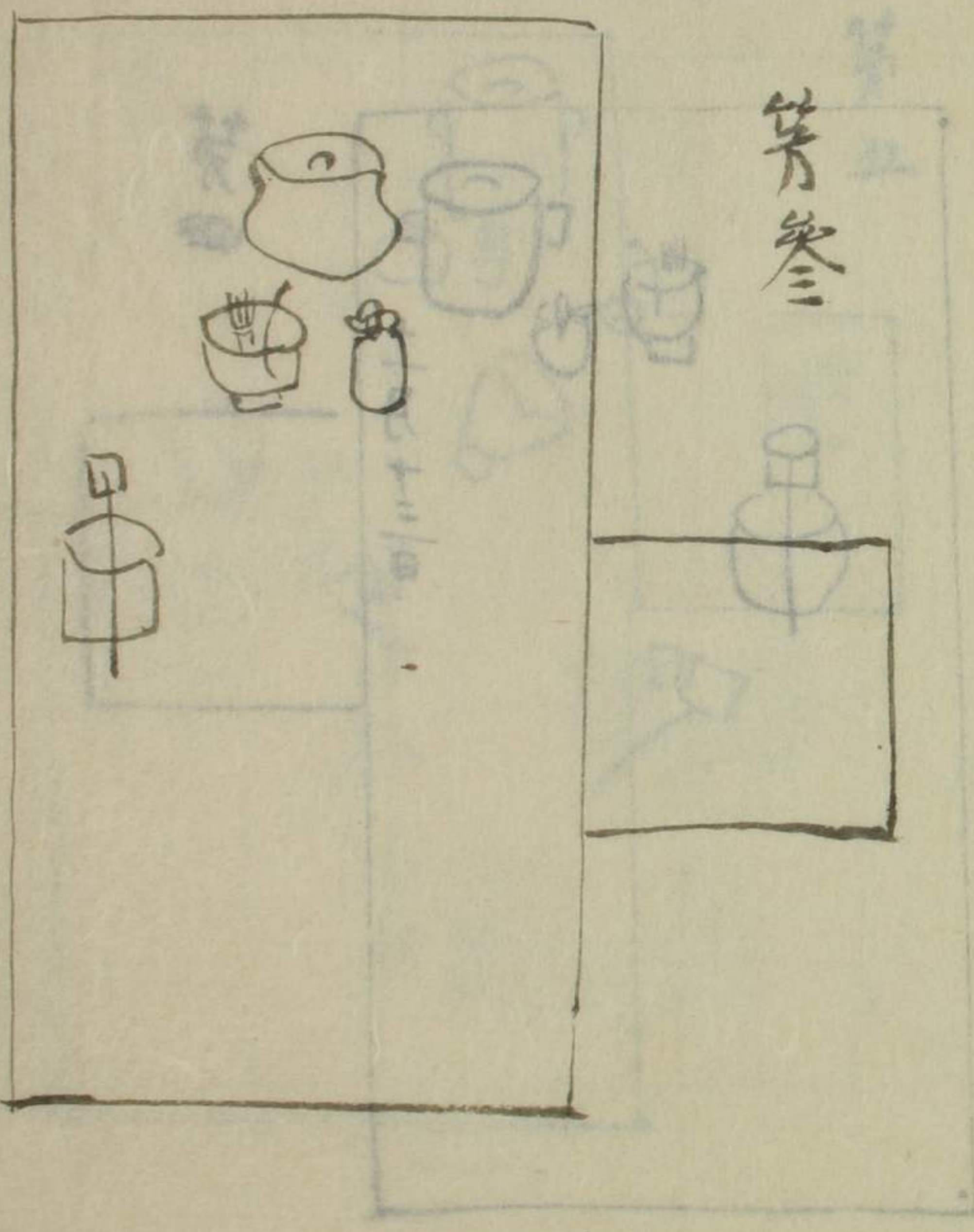
笄齋



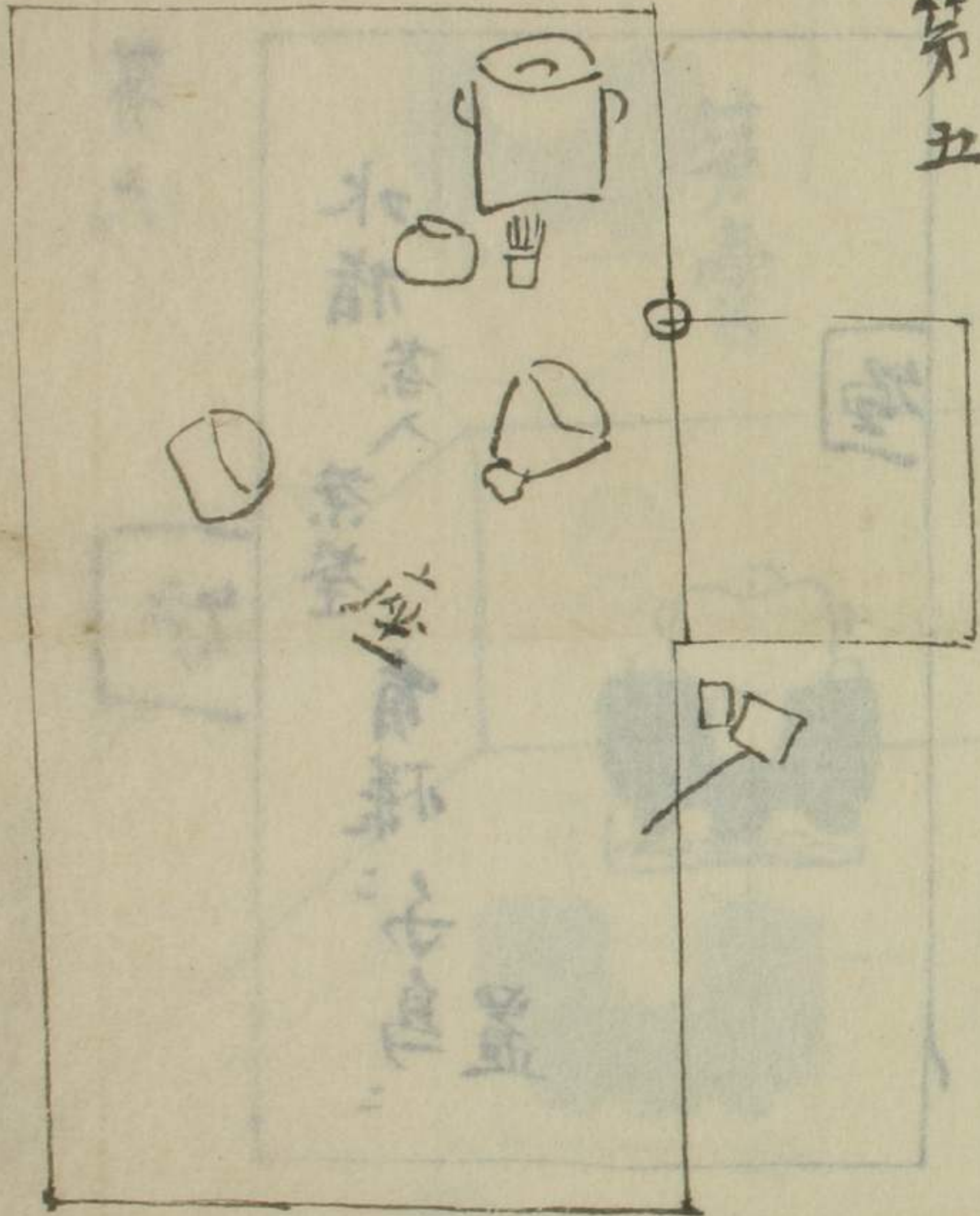
Handwritten text in a rectangular box, possibly a list or notes.

Vertical handwritten text on the left side of the page, including characters like '大指' and '水'.

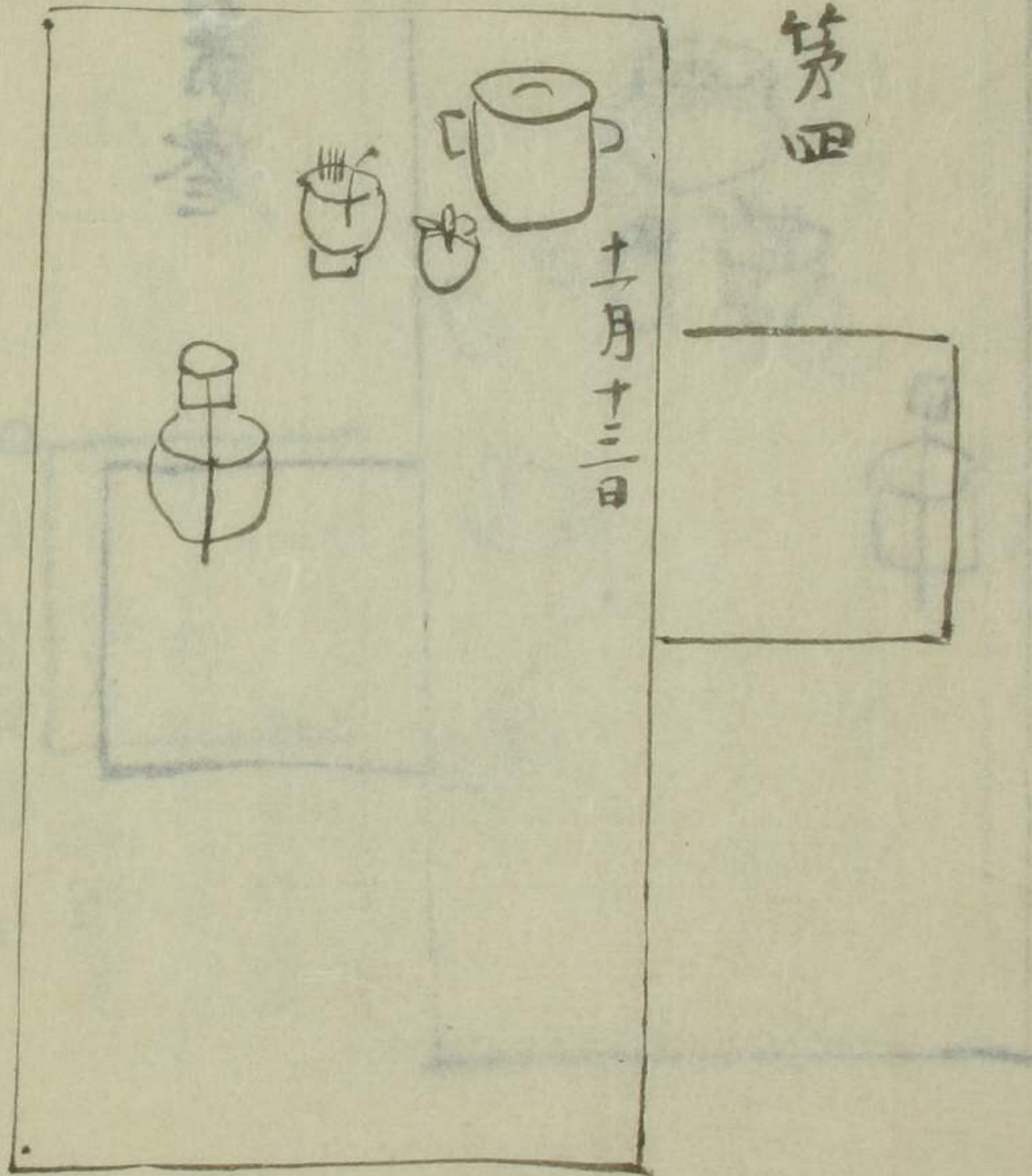
笄齋



第五



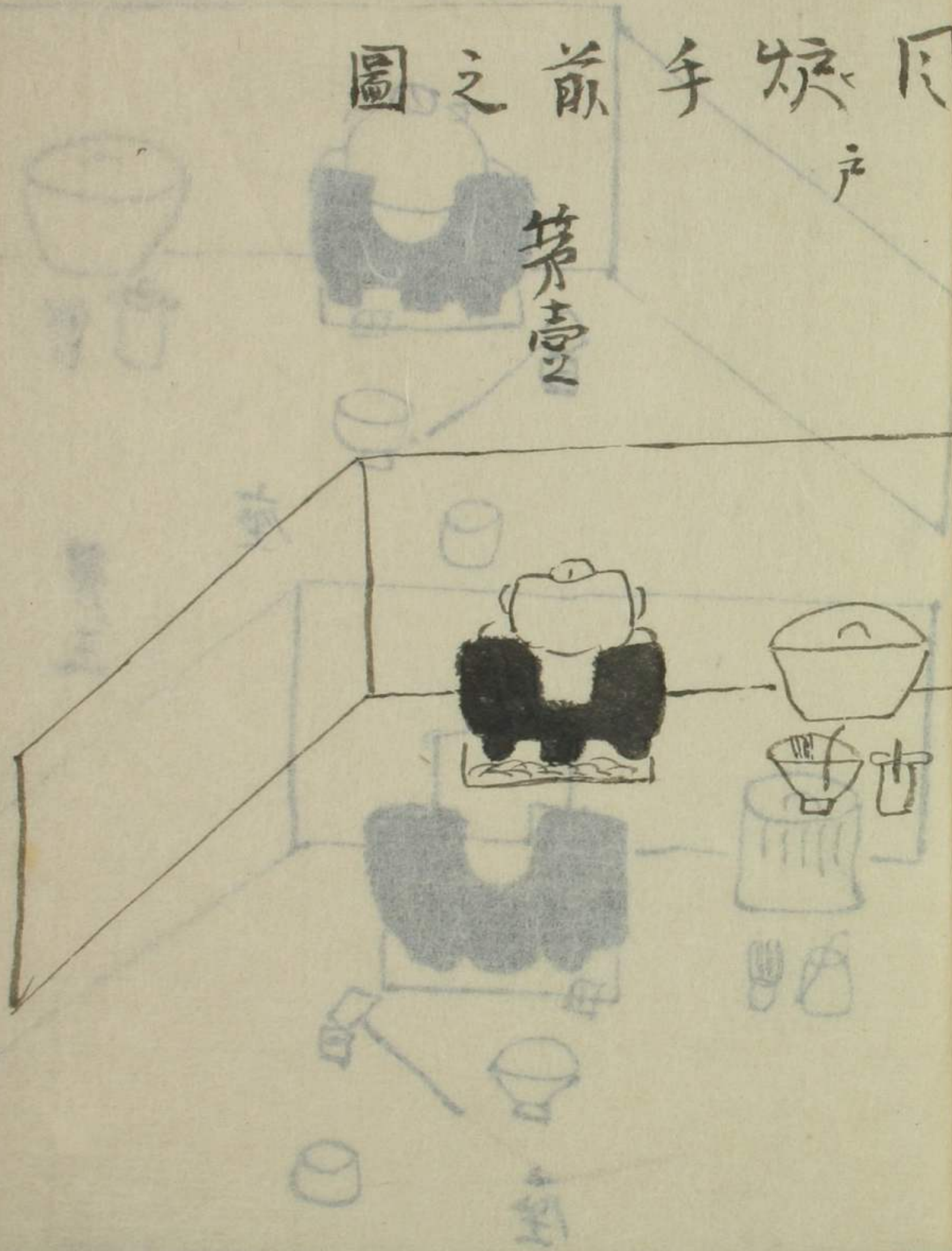
第四



圖之前手煨月

戶

茶壺



第六

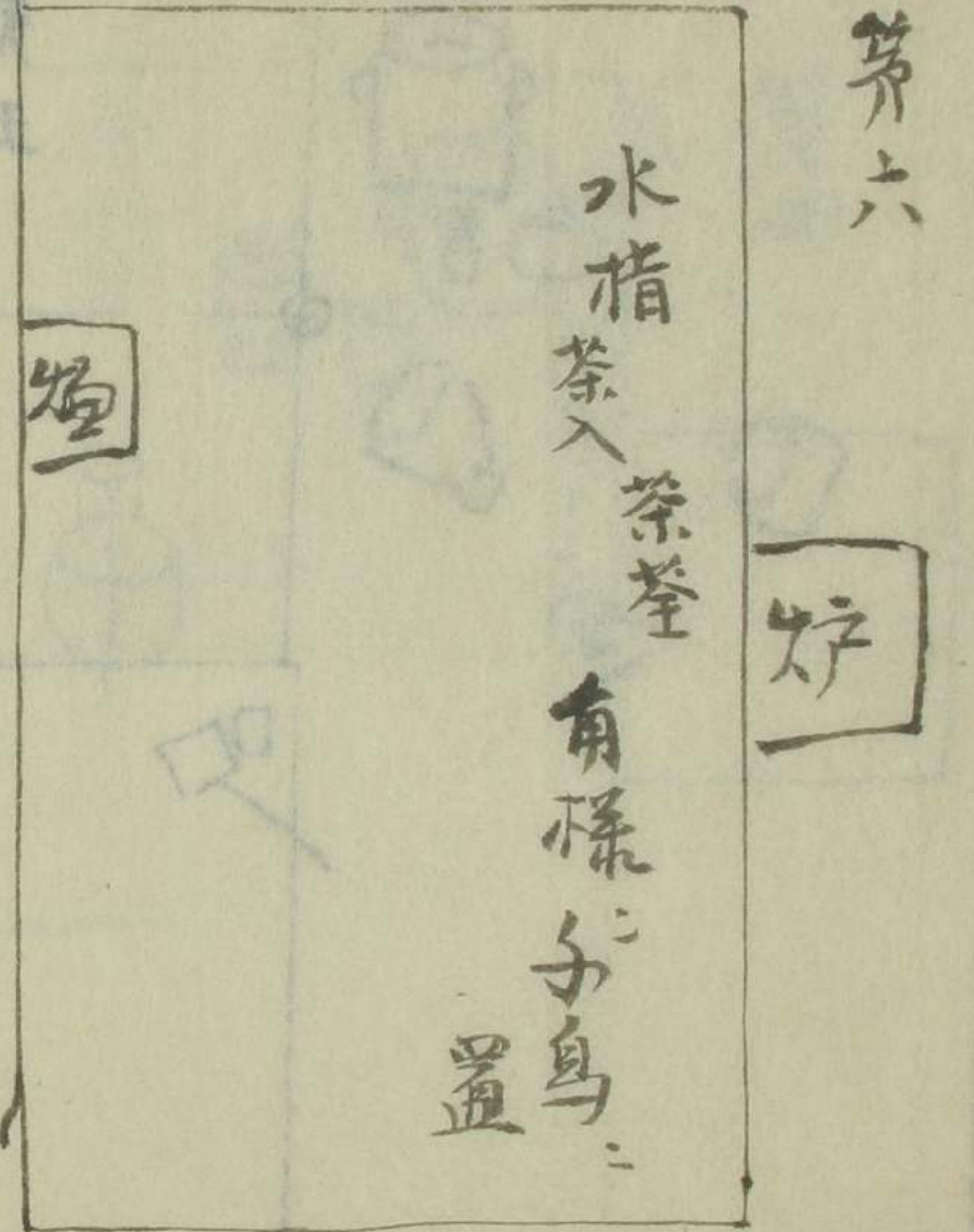
水指 茶入 茶釜

有條子鳥

置

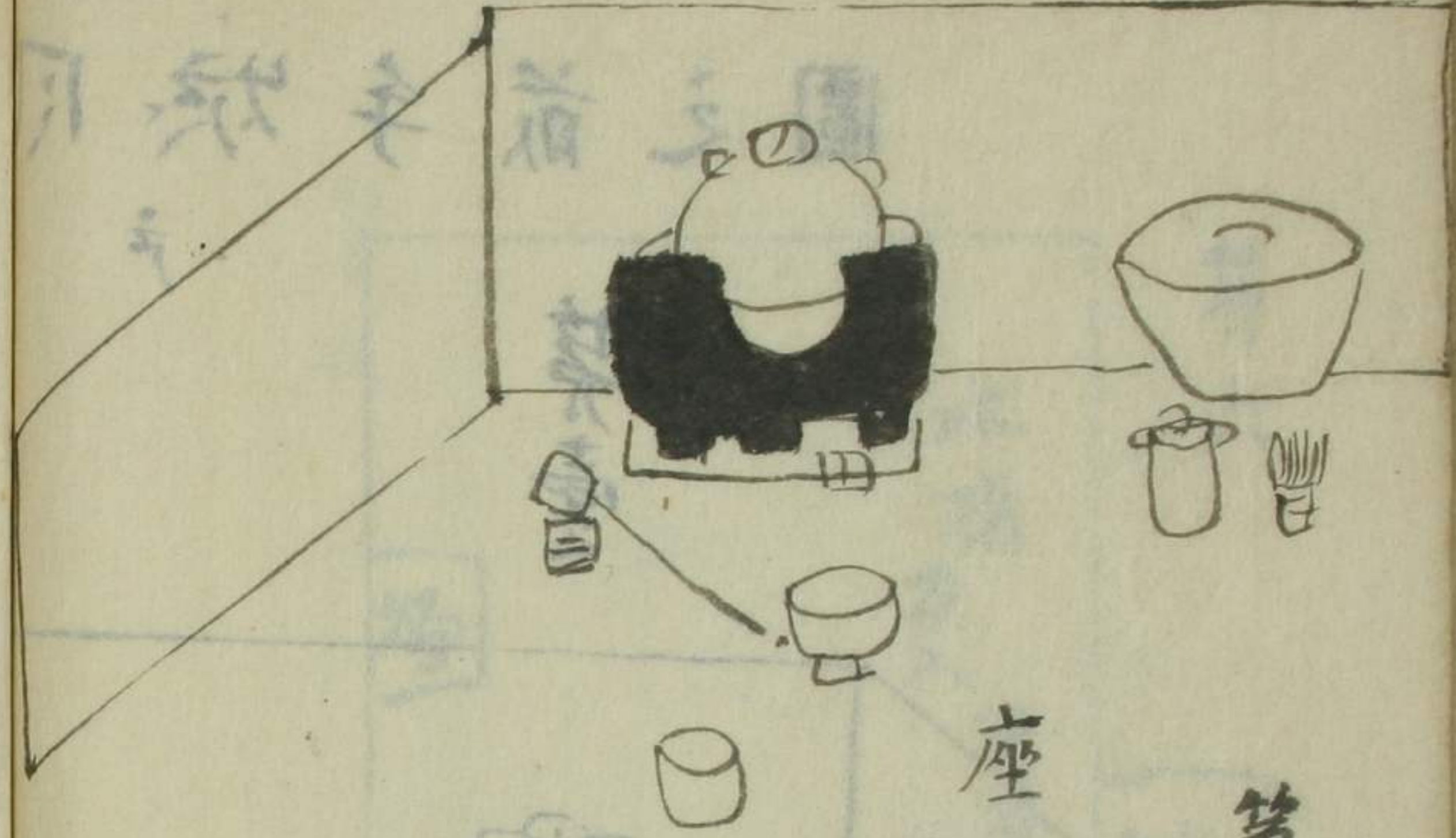
爐

爐

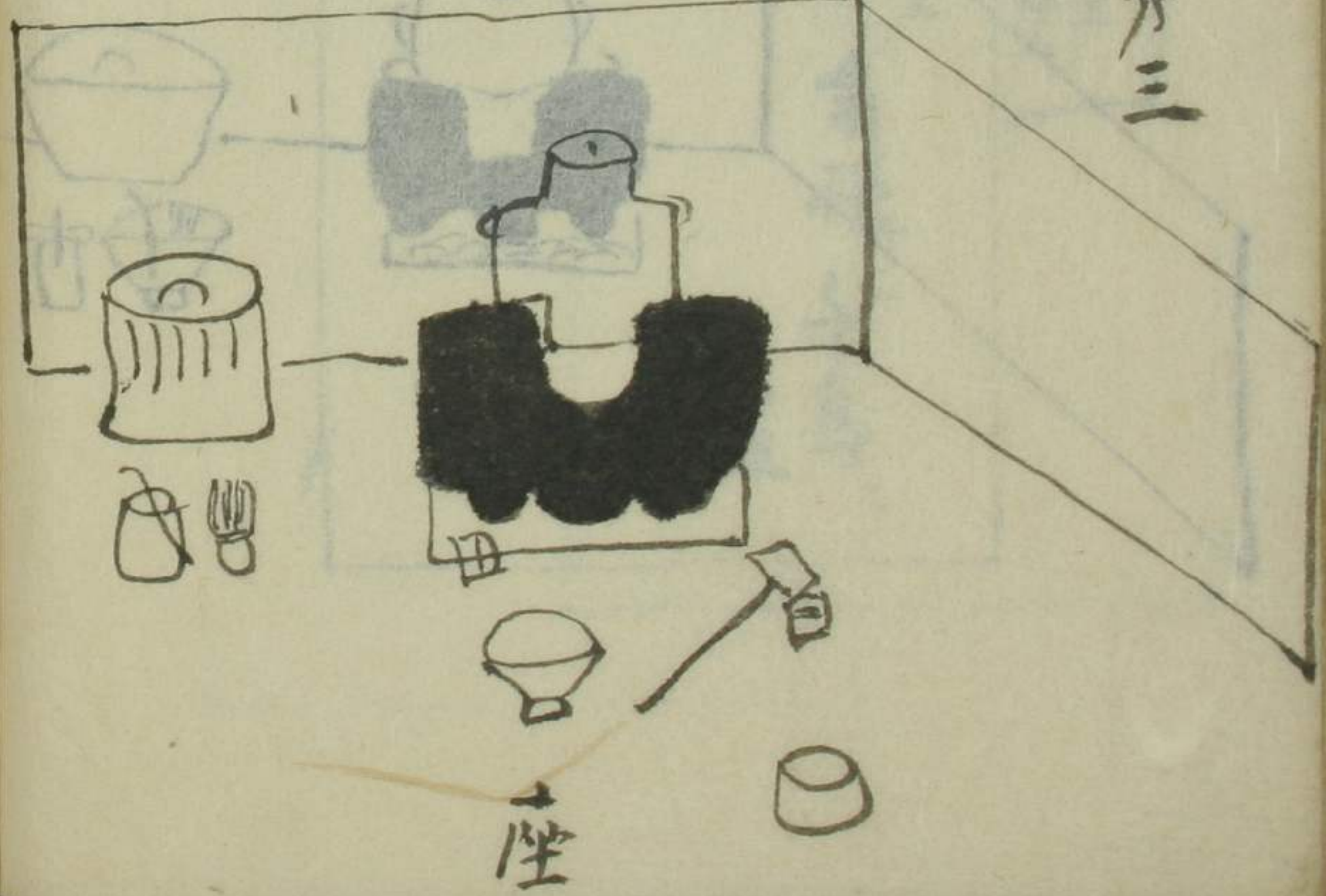


Handwritten text on the left page, possibly a page number or title, oriented vertically.

二第



第三



文化元甲子八月日

松本氏
所持

一

